

19m08

教育方法論m

解答例

1学びのための指導・支援のあり方

教育方法論 m 第8回 テーマ「学びのための指導・支援の在り方」
郎

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

水平的な関係→学習者同士 垂直的な関係→大人の手（教師）の力を借りている。

ヴィゴツキーの最近接発達領域→プログラム型の系統学習とプロジェクト型の問題解決学習の長所を生かすような統合型学習システム。

板書の機能→問題の提示、内容の確認、学習の整理、確認など。

板書を使って（ゆさぶり）ができる。

全員参加の授業5原則

さまざまな反応をとらえる、空白の時間を作らない、待つ、学習形態の工夫、教室全体を見る

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

ポイント1)

2)

3)

4)

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●授業準備の段階で板書も計画しておく、子供たちが板書する機会も設ける。

板書について自分の傾向をつかみ話し合うことが大切（札幌教育センター）

子供に正解と速さだけを競わせる授業になっていないか、（日本共同教育学会）

1人学習や自由な時間ほど学習成果に差が出る。個への支援は大丈夫か

教師が主人公になっていないか

(4) 自分の意見

全体の要点●

ポイント1)黙り込んでもあせらず待つことも大切

2)板書は自分だけで良しあしを見つけることが難しい

3)子供の主体性を大事にしている。

4)

(5) 出典(文献名、url 等)

(1) 文部科学省(2017).「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(2) 文部科学省(2018).「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(3)

水平的な関係

学習者同士

ヴィゴツキーの最近接発達領域

統合型学習システム

垂直的な関係

大人の手

板書

ゆさぶり

全員参加の5原則

教室全体を見る

空白の時間を作らない

学習形態の工夫

さまざまな反応をとらえる

待つ

2学習環境としての時空間

教育方法論 m 第 回

テーマ「学習環境」
としての時空間

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

- ポイント1) 人の気持は空間によって左右される場合がある
2) 教室を「語りと対話」のある空間へ
3) 子どもが自由に主体的な活動を保障するオープンスタイル
4) 教え込みから学び合いへ転換

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

- ポイント1) 授業改革の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」と位置した
2) 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点は普遍的な要素である
3) 習得・活用・探究を通じて質の高い学びにつなげるに重要
4) プロジェクトを学び続けるには学習の質を一層高める授業改革をしていくことが求められる

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

- ポイント1) オープンスタイルとは柔軟に教育活動を展開できるように間仕切りのない学校
2) 大きく分けると「ワークスペース型」「ラーニング・センター型」「特別教室型」の3形態がある
3) 壁で仕切られた空間は一斉授業に向いている → 学習が固定的・画一的になりがち
4) セミリティーズ確保にいく、学級崩壊も成り得る

(4) 自分の意見

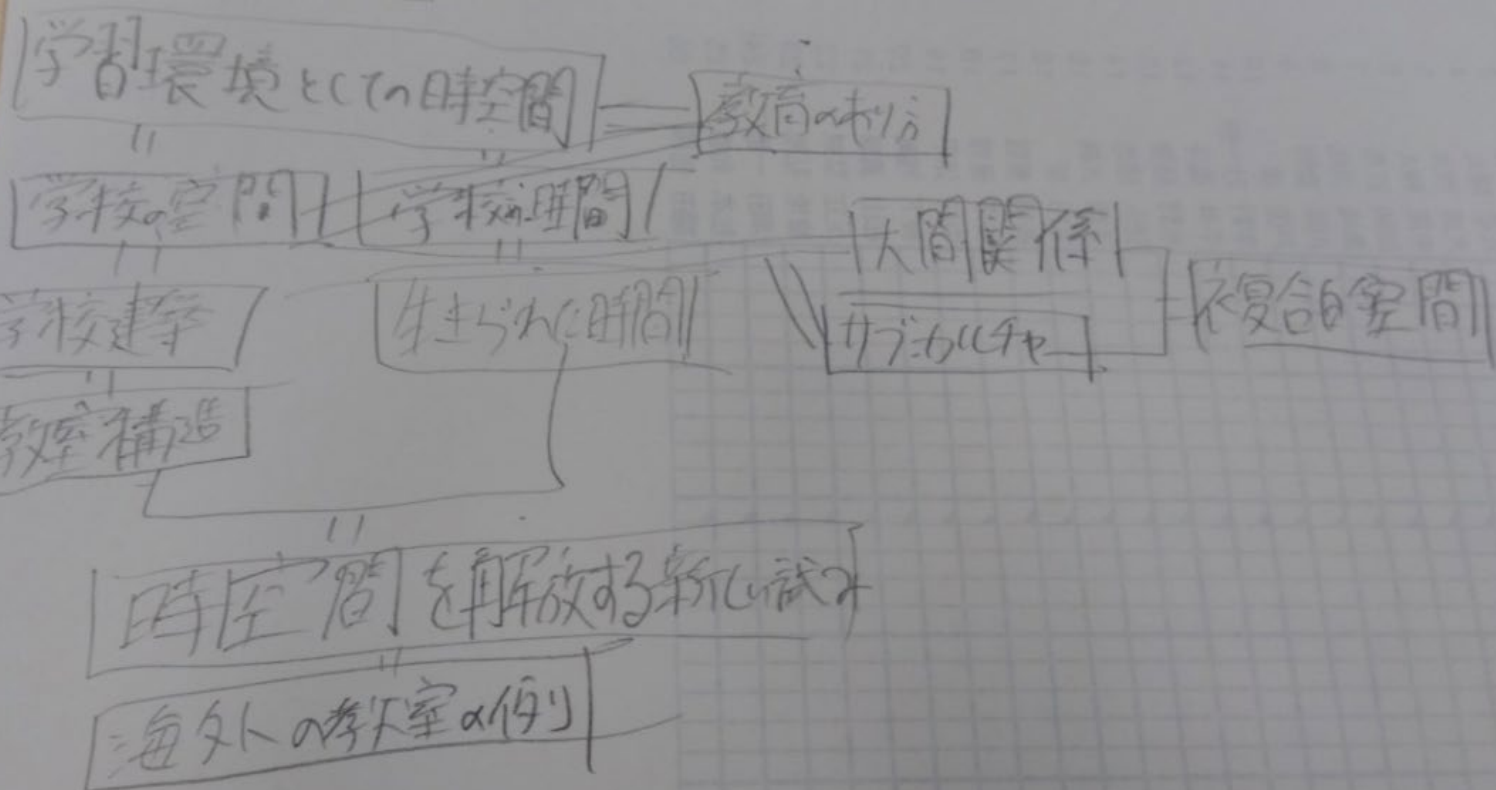
全体の要点●

- ポイント1) 従来の教室ではなくオープンスタイルにすることで主体的な活動へ
2) しかし、他のクラスの迷惑になる可能性もある
3) そのため、オープンスタイルは教師の力量によって左右される。
4) ある程度の秩序を保ちつつオープンスタイルへ

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017)。「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
(2) 文部科学省(2018)。「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
(3)

概念系統図



3教育評価論としての実践記録

教育方法論 第8回 テーマ「教育評価論としての実践記録」

(1)「新しい時代の教育方法」より

実践記録は、教員が実際にあった事を克服して行った事だけを記録していくのではなく、芸術的性格や科学的性格の教育実践を混ぜ合わせたものを目的意識的に記述していかなければならない。

ポイント)

- ・教育実践を対象とする実践教育は、時代状況に向き合って教育を行なった事を目的意識的に記述し、研究想像の命綱として蓄積
- ・実践を中心として、ぶつかる問題や矛盾やこれらの克服を営んだうえ、人間としての教師の生活感を反映していくべきであると勝田守一は論文で発表
- ・教育実践には芸術的性格と科学的性格が重視されており、これらから実践記録でも求められる。

(2)「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

授業や休憩時間などから生徒の成長をよく観察していき、よかった点や悪かった点などを他の授業担当教師などと一緒に情報共有することで、評価について妥当性や信頼性が高められる。

ポイント)

- ・生徒にどういった力が身についたのかという学習状況を的確に把握する必要性がある
- ・生徒個々の持つ良い点や可能性などの多様な側面、進歩を把握し学年や学期に渡ってどれだけ成長したのかという視点を大事にする
- ・教師間での情報共有から実践記録を蓄積していき、評価に関する力量の向上を図る

(3) ネット資料から(長所・短所等)

コツコツと学級通信を作成していくことは、保護者に学級の情勢を伝えるだけでなく子どもたちの良さや自身の指導が適切であったのかを反省する一種の記録を作成することとなる。

ポイント)

- ・子や教師だけでなく、学級通信という形で保護者に記録を伝えていく
- ・学級通信で伝えていくことで、実践記録を作っていると一緒になる
- ・記録をつけることで子どもの良さや指導の省察をすることができる

(4) 自分の意見

実践記録には芸術や科学について混ぜ合わせたものを記録していくとしているが、実践記録は評価や省察を行うものの一つにすぎない。しかし、細かくつけていくようにしていかなければ、教師が子どもの成長を見ていく参考となるものがなく、正確で信憑性がある評価をすることができない。

ポイント)

- ・学級通信以外の形でも、できるだけ日記のように細かく記録していくべきである
- ・子どもたちの成長を大切にしていき、記録をしていく
- ・人間性や生活感を反映する事を忘れてはならない

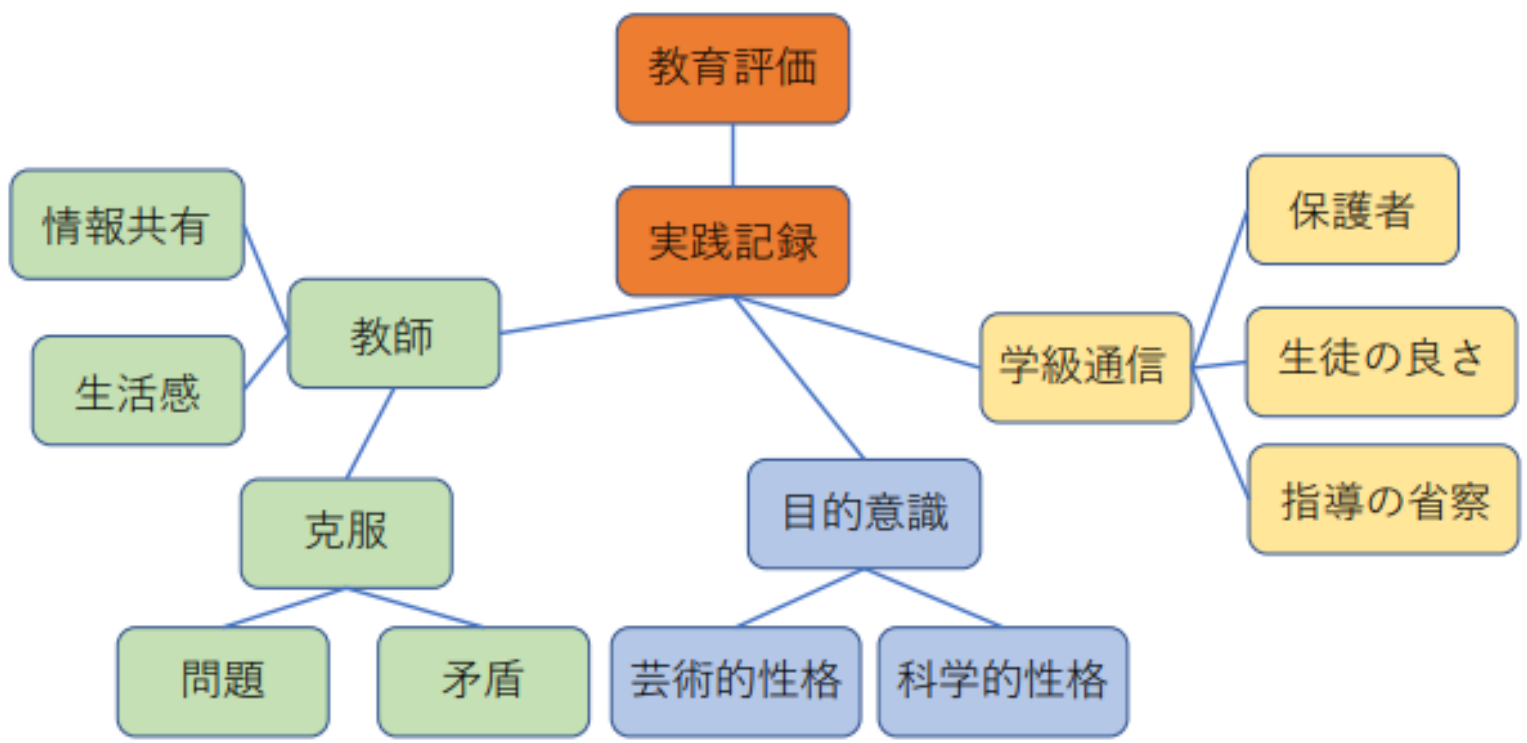
(5) 出典(参考文献、URL 等)

- ・「新しい時代の教育方法」 pp.240 ~ pp.243
- ・「17 中学校学習指導要領解説」 pp.91 ~ pp.94
- ・学級通信は実践記録 - 教育つれづれ日誌 | 学びの場.com

(URL: <https://www.manabinoba.com/tsurezure/19093.html> 2019/11/14 参照)

- ・学級通信発行のメリット - 教育つれづれ日誌 | 学びの場.com

(URL: <https://www.manabinoba.com/tsurezure/23453.html> 2019/11/14 参照)



4ICT活用例

ICT 活用例

1. 単 元

2. テーマ

理科実験における ICT 活用

3. ICT 活用のねらい

- 教科書に書いてある実験も全て「見える化」する
- 実験に対する理解を深める

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (授業中)	ICT 活用の手順 - 理科実験の班 1 班ずつにタブレットを渡す - 教師が指定する実験の動画も各班で見てもらう。 (すぐ終わるような実験も「見える化」する) イメージ図など  1班 6人程度	- 動画以外のアプリや、違う单元のもの - も見せたいようにする。

備考

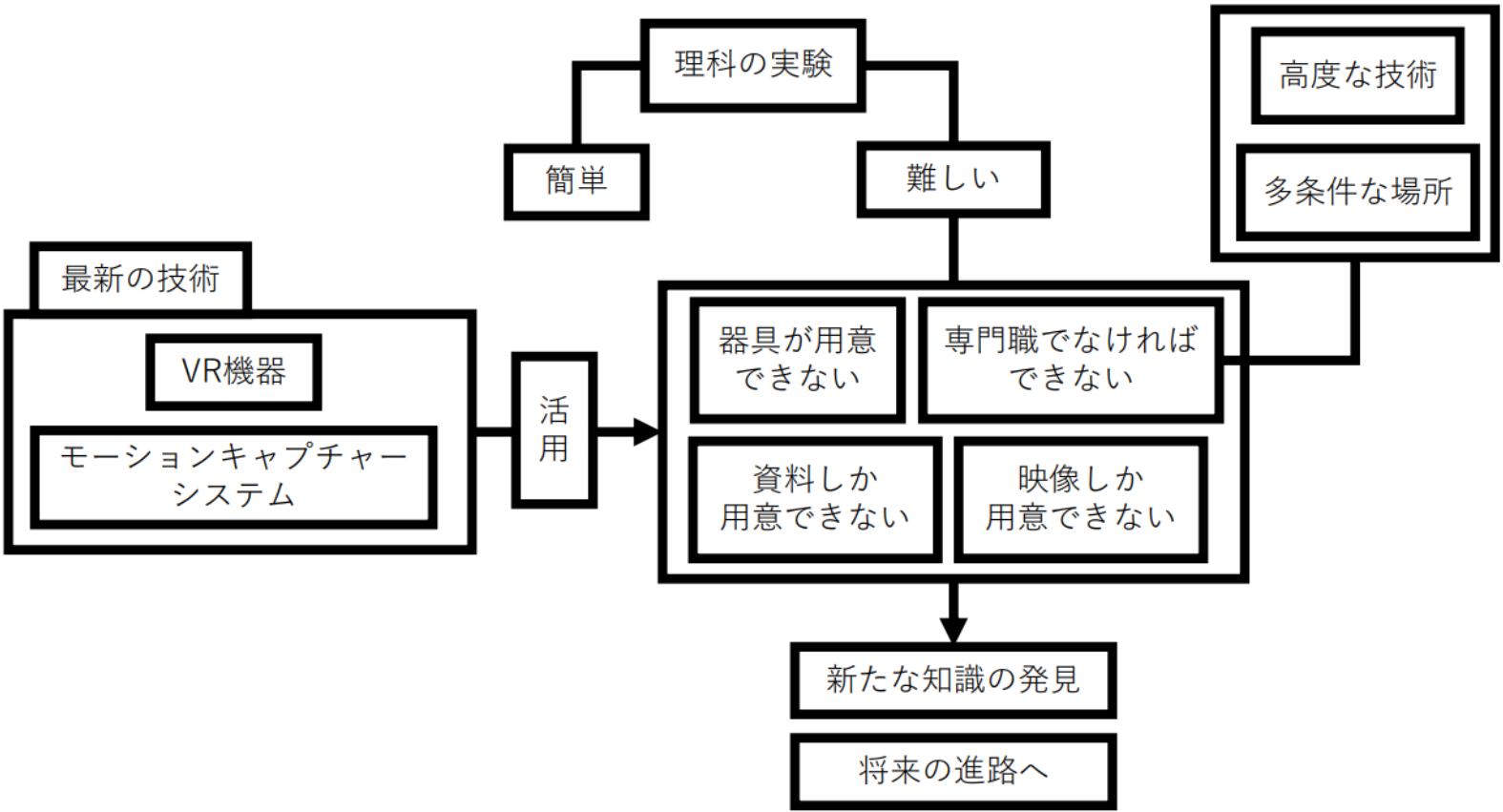
使用教科書 「・・・」(〇〇社)

準備物 ……

授業形態と工夫 ……

5. 出典・参考等

ICT活用例



5 確認問題07

教育方法論 m

第7回

確認問題 07

(1) 日本カリキュラム学会が 2001 年にまとめた、カリキュラム編成の原理を 3 つ挙げよ。

- ・学力中心カリキュラム
- ・社会中心カリキュラム
- ・人間中心カリキュラム

(2) 次の「アプロプリエーション」としての学びに関する文章の空欄を埋めよ。

アプロプリエーションとしての学びは、第 1 に、単なる（**模倣**）ではなく、自分の（**文脈**）に合わせた形で取り組まれてゆくということである。その場合、「〇〇さんは△△といいましたが、私はそれにつけ足して、□□と考えました」という（**間接話法**）による表現になることが多い。これによって、単なる（**引用**）で終わるのではなく、他者の考えをめぐって自分の（**判断**）や意見の（**交流**）が行われることになる。第 2 にそれと関わって、他者の言葉を（**受容的**）に取り入れるのではなくて、時として（**批判**）や反論の（**対象**）として、「自己の言葉と（**対抗**）する言葉」として取り込まれることもある。

(3) 斎藤喜博が、授業は「3 つの緊張関係の中に成立する」と述べた。この趣旨について、簡潔に説明せよ。

教師が一般的・常識的な知識を子どもたちに一方的に教えるだけでなく、「教師」「子ども」「教材」の 3 つの授業における緊張関係の間には「衝突」や「葛藤」が生じるような授業をすべきということ。

(4) 「教材で教えるという主張」「教科内容論の見直し」「社会文化的アプローチ」のうち 1 つについて簡潔に説明せよ。

教科内容論の見直し
教科内容論の見直しとは、これまで学校で教えられてきた「科学的概念」や「学校知」が問い直されており、様々な変化が影響を及ぼしている。つまり「科学の成果を子どもたちに系統的に教える」が疑がわれはじめたことである。なので教科内容論が「かつてない危機」に直面している。これから、今までの学習者が必要知識は何かという観点から求められていることである。

**）確認問題 02 を自己評価し、
気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5 段階自己評価（ **3** ）

■

今までの教科内容の概念だけを教えるだけでなく、様々な物事の影響も取り入れていかなければ、これからの学校の授業は成立しないと感じた。

「石巻市立図書館」

